13　都錦「大太鼓図」壁掛

佐々木清七　1枚　明治32年(1899)　301.5×197.0

1900年(明治33)パリ万国博覧会出品のために宮内省より下命されて制作され、金牌を受賞した作品である。佐々木清七(1844～1908)が日本の伝統的な高機を用い、西洋の染料を取り入れながらも日本の伝統的染料を主体として染めた美しい日本産の生糸を用いて銀撚糸、平金箔糸を織り交ぜ、縫取織を主体に精緻に織り上げた作品である。「都錦」という名称は、そうしたわが国の伝統を生かして織り上げたということを主張しての佐々木のこだわりが表れているのであろう。原図は原在泉(1849～1916)で、これを田中幽峰(1863～?)が補助して仕上げたとされる。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

美術染織の精華——織・染・繍による明治の室内装飾

三の丸尚蔵館展覧会図録No.54

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社　東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成二十三年三月二十九日発行

©2011, The Museum of the Imperial Collections